

講義コード
7310112-1
授業科目名
経済学入門
授業科目名(英字)
Introduction to Economics
時間割
後期 金曜日 3校時 -
対象年次及び学年
1年次
担当教員
松井 潤
ナンバリングコード・水準
B1
ナンバリングコード・分野
ECN
ナンバリングコード・ディプロマ・ポリシー(DP)
bca
ナンバリングコード・提供部局
E
ナンバリングコード・対象学生
3
ナンバリングコード・特定プログラムとの対応

0
ナンバリングコード・授業形態
Lx
ナンバリングコード・単位数
2

関連授業科目
経済数学入門、ミクロ経済学Ⅰ、マクロ経済学Ⅰ、ゲーム理論
履修推奨科目
経済数学入門
学習時間
講義90分 × 15回 + 自学自習（準備学習15時間 + 事後学習45時間）
授業の概要
経済学は、社会における経済活動のあり方を通じて、どうしたら人々の幸福を達成できるかを研究する学問です。経済学の分野は、伝統的にミクロ経済学とマクロ経済学の大きく2つに分けられます。ミクロ経済学は、消費者と企業がどのように意思決定を行い、市場でどのように影響し合っているかを分析します。マクロ経済学は、インフレーション、失業、経済成長のような経済全体の現象を分析します。この講義ではそれぞれの入門的な内容を扱います。
授業の目的
どうすれば社会の人々がより良く暮らしていくことができるかを考えるため、ミクロ・マクロ経済学の基礎を学びます。そして、様々な社会・経済現象を分析するための基本的な手法を習得します。
到達目標
<ul style="list-style-type: none"> ・経済学の基礎的な概念を説明できる。（DPの「b. 知識・理解」に対応） ・基本的な社会・経済現象を分析し説明できる。（DPの「b. 知識・理解」に対応）
成績評価の方法
到達目標の達成度を、課題30%、期末試験70%で評価します。（いずれも到達目標すべてに対応） 詳細は、初回授業時に説明します。
成績評価の基準
<p>成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。</p> <p>秀（90点以上100点まで）到達目標を極めて高い水準で達成している。</p> <p>優（80点以上90点未満）到達目標を高い水準で達成している。</p> <p>良（70点以上80点未満）到達目標を標準的な水準で達成している。</p> <p>可（60点以上70点未満）到達目標を最低限の水準で達成している。</p> <p>不可（60点未満）到達目標を達成していない。</p> <p>ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。</p> <p>合格又は了 到達目標を達成している。</p> <p>不合格 到達目標を達成していない。</p>

授業計画並びに授業及び学習の方法

【授業計画】

- 第 1回 経済学とはどんな学問か
- 第 2回 比較優位の理論
- 第 3回 ミクロ経済学 (1) : 需要・供給曲線と市場の均衡
- 第 4回 ミクロ経済学 (2) : 需要・供給曲線のシフト
- 第 5回 ミクロ経済学 (3) : 価格弾力性
- 第 6回 ミクロ経済学 (4) : 便益と費用
- 第 7回 ミクロ経済学 (5) : 経済厚生
- 第 8回 ミクロ経済学 (6) : 外部性
- 第 9回 マクロ経済学 (1) : 国内総生産と物価水準
- 第10回 マクロ経済学 (2) : 三面等価の原則と45度線分析
- 第11回 マクロ経済学 (3) : 乗数効果
- 第12回 マクロ経済学 (4) : 財政政策と金融政策
- 第13回 マクロ経済学 (5) : 総需要・総供給分析
- 第14回 マクロ経済学 (6) : インフレとデフレ
- 第15回 まとめ

授業計画は、必要に応じて変更する場合があります。

【授業及び学習の方法】

授業は、板書およびスライドを使用した講義形式で行います。毎回課題を出しますので、期限までに提出してください。

【自学自習のためのアドバイス】

講義と課題を通じて、各回の内容をしっかりと理解するよう心がけてください。自宅や図書館でじっくり時間をかけて自分考えることが重要です。疑問点があれば、遠慮なく担当教員に質問してください。

第1回～第15回 授業資料や課題、教科書の該当箇所を参考に、前回までの復習と予習を行う。(1時間 × 15回 = 15時間)

第1回～第15回 講義の復習と課題に取り組む。(3時間 × 15回 = 45時間)

【授業形態】

この科目は全回対面授業を行います。なお、状況によっては全て又は一部の回の授業形態を遠隔に変更する可能性があります。

教科書・参考書等

【教科書】

授業は、主に次の教科書に準拠します。

奥野正寛 (2017) 『経済学入門』日本評論社、2,000円+税

【参考書】

教科書と同レベルの書籍をいくつかご紹介します。大学図書館などで、自分に合うものを見つけて読んでみるとよいでしょう。

福岡正夫 (2008) 『ゼミナール経済学入門 (第4版)』日本経済新聞出版社

伊藤元重 (2015) 『入門経済学 (第4版)』日本評論社

スティグリッツ、ジョセフ・E、カール・E・ウォルシュ (2012) 『スティグリッツ入門経済学 (第4版)』東洋経済新報社

マンキュー、N・グレゴリー (2025) 『マンキュー入門経済学 (第4版)』センテージ・ラーニング

クルーグマン、ポール、ロビン・ウェルス (2019) 『クルーグマン ミクロ経済学 (第2版)』、『クルーグマン マクロ経済学 (第2版)』東洋経済新報社

アセモグル、ダロン、デヴィッド・レイブソン、ジョン・リスト (2020) 『アセモグル/レイブソン/リスト 入門経済学』東洋経済新報社

その他の参考文献は、授業で随時ご紹介します。

オフィスアワー

月曜日3校時、松井研究室 (南7号館2階)

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

経済学は、お金もうけのための学問ではありません。例えば、どの株を買えばよいかといった問いを考える学問ではありません。また、高校の社会科で学ぶように制度的知識を得ることが目的ではありません。でも、経済学はきっとみなさんの役に立つ、面白い学問です。先人たちの知恵を得て、社会の仕組みを解明していきましょう。

自分自身が生きている社会・経済はどのような仕組みで成り立っているのか、そしてどうすればより良い社会を実現できるのかといった問題に関心のあるひとを歓迎します。

参照ホームページ

メールアドレス

教員の実務経験との関連
特記事項
障がい等により本授業の受講に際し特別な配慮を要する場合は、所属学部・研究科の学務係（医学部・医学系研究科は学生係）又はバリアフリー支援室に事前に相談してください。